



韓国

NCB 海外レポート

KOREA NOW!!

～財布の要らない社会～

◇ はじめに

- ・クレジットカードやスマホさえあれば、現金を持ち歩かなくても不便を感じないキャッシュレス化は世界中で進んでいます。今回はキャッシュレス化が進んでいる韓国の状況をお伝えします。

◇ 韓国のキャッシュレス化の状況と普及の背景

- ・韓国のキャッシュレス決済比率は2021年時点で95.3%¹と、世界でもっとも高い水準にあります。韓国では1962年に、国民1人ひとりに番号が割り当てられる「住民登録番号」制度が導入されました。この番号は日本のマイナンバー制度に相当するもので、社会保障や税などの行政をはじめ、クレジットカードにも紐づけられています。また、この番号が記載されている「住民登録証」は身分証明証としても利用されています。
- ・キャッシュレスが普及した背景には、韓国政府によるクレジットカード決済促進策が挙げられます。政府は、個人消費の活性化や徴税管理の適正化などのため、クレジットカード利用額の所得控除²、事業者へのクレジットカード決済対応義務化、宝くじ付きクレジットカード領収証（現在は廃止）などを実施しました。

◇ 韓国のキャッシュレス決済手段の変化

- ・このような政府の取組みを背景に、これまで韓国ではクレジットカード決済が主流となっていました。ここ数年、キャッシュレス決済の手段はスマホを使ったモバイル決済やバーコード・QRコード等のコードを利用した非接触型決済へと移りつつあり、その割合はキャッシュレス決済全体の52.1%に拡大しています。特に若者や外国人観光客によるコード決済の利用が増えており、読み込み用の端末の普及は拡大しています。

決済手段別利用率の推移



出所：韓国銀行「2024年上半期中の韓国内支払決済動向」をもとに西日本シティ銀行が作成

◇ 日本で暮らして感じた日本のキャッシュレスの様子

- ・韓国人の私が以前旅行で来日した時は、日本はまだ現金決済が主流という印象を持っていました。2020年から日本に住み始めてからは、クレジットカードやQRコード、電子マネー等で決済しポイントを貯める「ポイ活」の影響により、キャッシュレス決済はかなり進んできたと感じます。
- ・とはいえ、日本の2023年時点のキャッシュレス決済比率は39.3%³と、まだまだ伸び代がある印象です。福岡都市部の飲食店や小売店のレジ付近では、以前に比べ、韓国や中国のクレジットカード、コード決済にも対応した、多様な決済手段が表示されるようになってきました。今後も増加が見込まれるインバウンド客の需要を取り漏らさないようにするためには、クロスボーダーのキャッシュレス化に向けた対応はいずれ避けて通れないのかもしれませんが。

¹ 一般社団法人キャッシュレス推進協議会「キャッシュレス・ロードマップ2023」より

² 年間クレジットカード利用金額の一定比率を控除（上限あり）

³ 経済産業省ニュースリリース 2024年3月29日付より

2024年11月14日

西日本シティ銀行国際部 洪承元(ホン・スンウォン)